

「読者の広場」

## 「HESS」の会員はお得です？

帝国石油 技術企画部 原田 亮

昨年11月初旬から今年の2月下旬まで、米国に出張しました。今回の約4ヶ月にわたる米国での生活は、いつもの出張とはかなり雰囲気異なる、緊張感のあるものでした。この原因は、ご承知のごとく、イラクと米国の戦争にあります。空港でのセキュリティチェックは普段になく厳しく、どこの空港でも靴を脱がされ、中を検査します。シカゴ空港では財布の中身まで調べる始末で、財布についているキーホルダーがピストルの弾に似たようなものでしたら、その場で尋問を受けること確実です。また、本をくり貫き武器を隠し持っているというウワサもあり、ウツカリ辞書は持ち歩けません。空港近くに必ずある駐車場やレンタカーのプールには常に警備員が常駐しており、空港のセキュリティは少し異様な雰囲気でした。町に行っても、米兵が死亡したニュースが伝えられれば、星条旗が半旗で掲揚され、どこに行っても戦争の影が鮮明に出ている時期の出張でした。記憶に新しいとは思いますが、昨年12月中旬に米軍がイラクでフセインを捕獲したときには、全米中がテロへの警戒感を高め、FOXニュースは24時間テロへの警戒を国民に伝えていました。平和国家日本に生まれた小生には、地球の裏側で起こっていることが、これ程までに恐怖を与えるとは思っても見ませんでした。

そんな雰囲気の中、少し面白い体験をしました。米国が車社会であることは言うまでも無い事ですが、車にはガソリンが必要です。米国のスタンドは大抵セルフ方式で、運転者が自分で給油します。いわゆるオイルメジャーのガソリンスタンドは、日本で見かけるスタンドの看板とほぼ同じものを使っているので一目でわかります。看板は大抵黄色、オレンジ、赤といった、車に乗っていても目立つ系統の色が使われていて、確かに良く目立ちます。ところが、ある石油会社のスタンドの看板だけ、なぜか緑色の看板を出しています。しかも「HESS」という大きい文字しか書かれていない看板を出しています。

米国の東海岸方面に行かれた方は目にされたと思いますが、この「HESS」というガソリンスタンドは、北はボストン付近から南はフロリダまで、スタンドの数はさほど多くはありませんが、いわゆる米国東海岸の大都市には少なくとも一軒ある、ニューヨーク株式市場にも上場されている石油会社のスタンドなのです。はじめて見た時は、「ついに学会運営資金難のためにガソリンスタンドで儲けることになったのか！」と冗談に思った次第ですが、そのうち、どういうスタンドだろうか、どこの会社が経営しているのだろうか、と気になってしまいました。2回目にこのスタンドの前を通り過ぎるとき、わざと立ち寄って給油をしてみました。ちょうど、この雑誌向けに原稿を書いていたときでしたので、日本から本学会の雑誌を一冊持ち歩いていました。このときも学会誌を車にのせていたので、学会誌をガソリンスタンドの店員に見せて、「HESS」という水素エネルギーの学会が日本にあるということを教えたところ、非常に驚いた顔をし、不思議そうにして、小生が持っていた雑誌を店の主人に持って行きました。するとその主人はガソリンをサービスすると言出し、おまけに「HESS」オリジナルのトレーラの模型まで、「プレゼントだ」と言って小生に渡し、期せずして非常にラッキーな体験をしました。

「HESS」の会員だったことが幸いして、得をしました。読者のみなさんも東海岸に行くときには、「HESS」の雑誌を忘れずに持って行ってください。

なお、石油会社の「HESS」についてお調べになりたい方は、<http://www.hess.com> にてどうぞ。

